

「五葉山の魅力」

五葉山自然倶楽部
創立10周年に寄せて

⑨

五葉山のおかげできれいな水が飲め、仕事もすることができた。五葉山とかかわりは小学生のときから始まった。明治三十八年生まれの親父、春松は五葉山の巡視員として国有林の見回りを託されていた。終戦前から親父は私を犬の代わりに山に引っ張って行った。山に行くのが面白くて、親父の先になって歩いた。親父は、昭和四十年に体調を崩す七十歳まで、春の山火事防止、入山者の誤伐、盗伐、盗掘、鳥獣の保護など五葉山の巡視員の仕事を続けた。

私は当時の大船渡営林署上有担当区の手元として、また作業組合の代表として組合員への払い下げの管理を任されていた。

昭和四十年代に入ると、住田町の町有林の造林事業が進み、私は作業班長として五十人の作業班員を擁し、町有林の造林面積の半数を占める八十畝に植え付けをしたこともある。この時代から仕事は国有林から町有林に移行していったが、国有林の巡視員をしながら住田町の林野保護員の仕事も行うこととなった。

山づくりや山を守ることの大切さを、五葉小学校の子どもたちに伝えることができたのは幸せだった。小鳥の巣箱づくり、シイタケやナメコづくり、スギの植え付けや刈り払い、そして五葉山登

り、避難施設として使われている「あすなる山荘」があるが、その使用日誌には三星マークがつけられていた。盛岡の学生が書いてくれたものだった。きちんと整頓されていることをしっかりと見

までの倒木被害があったこと。
私は五葉山麓の森林浴道を案内するとき、必ず話すことがある。それは岩の上にぐっと根を張ってたくましく育っているヒノキアスナロの姿である。雪や風、あるいはほかの樹木の影響で横に伸びざるを得なかったヒノキアスナロが、じっと機

の中でとても生き生きしている。「学校では見ることができない表情だ」と先生は言う。
私自身、この五葉山に育てていただいたのかも知れない。五葉山への愛着は、かかわった時間の蓄積と営みの強さでより深まっていく。五葉山、それは私にとってかけがえない山であり、恩人の対象である。

【執筆者プロフィール】
住田町上有住在住。七十二歳。緑豊かな山づくりに従事し、住田林業の礎を築いてきた。五葉小学校森林愛護少年団が内閣総理大臣賞を受賞できた立役者でもある。有住小学校や住田高校の自然観察会や森林浴体験では欠かせない森の案内人であり、存在それ自身が学びの対象である。

「五葉山は私の恩人」

住田町上有住

紺野 寿美

山の案内。さらには、上有住小学校の五葉山麓で行われる自然観察会、住田高校の五葉山森林公園森林浴の案内をさせていただいている。

平成六年度には五葉山麓森林公園の整備に携わり、この森林公園は自然観察会や森林浴の行事に活用されている。森林公園内の休憩や雨天時等の

てくれてうれしかった。五葉山で思い出深いことが四点ある。三年前に行われた見えたこともないようなシャクナゲが咲いたこと、五葉地区の婦人部の方々五十人を登山に連れて行ったこと、五葉小学校の一年生から六年生まで全校児童が登山してきたこと、そして昨年の低気圧によるすさまじい

会を覗(うかが)い、やがて真っ直ぐに天を目指して生きている姿である。人生においてはどんなに努力しても報われないこともある。つらく悲しい局面に立たされることもある。それでもあきらめないで突き進んでほしいという願いから、自然の営みに学ぶことを話す。児童や生徒たちは森

でもある。
【執筆者プロフィール】
住田町上有住在住。七十二歳。緑豊かな山づくりに従事し、住田林業の礎を築いてきた。五葉小学校森林愛護少年団が内閣総理大臣賞を受賞できた立役者でもある。有住小学校や住田高校の自然観察会や森林浴体験では欠かせない森の案内人であり、存在それ自身が学びの対象である。

リレー
エッセイ



住田高校地域文化選択講座・五葉山森林公園森林浴で生徒たちに語りかける筆者⑨